

2020/10/3

(うと Q 世話し 数式表現を使ってコロナ禍脱出をトライ あくまでトライアル その1)
最早、人類は、最後の一線を越えてしまったために「適者生存の枠外」となってしまった感があります。

コロナ禍によって経済活動が停滞したせいで気候温暖化をはじめとする生態系、環境破壊に凶らずも歯止めがかかった。

これは地球にとって「よし」

一方、同じコロナ禍によって経済活動が停滞したせいで「これまでよしとされてきた」物心に渡る満足度が大幅に低下した。

これは人間様にとっては「わるし」

要するに地球様と人間様の利害関係が完全に相反してしまったのが今。

で、上記の文言の同一項は何かと見ると「経済活動」

で、更にこの経済活動という文言を自分なりに分解すると

1人当たりの生産性 X 人口 (人間の数) と分解できます。

これはどこかで見た数字。

そう、一人当たりの生産性を上げ、人口減少に歯止めをかけよという現在の経済政策です。

簡略化して言えば「GDP(国内総生産)を上げよ」

これが達成できていないのを「日本化病」といい、それが現在世界各国に拡がりつつあるとの懸念が言われるようになりました。

それは特に今回のコロナ禍において。

しかしその対策を追いかければ追いかけるほど上述の地球様との利害関係はますます悪化し、とどのつまりには冒頭で述べた「適者生存枠外」の烙印を押され地球史上から消えていく羽目にもなりかねません。

ならばどうすればいいのか？

まず、相手側 (地球側) を変えるのは大変なので、自分側 (人類側) を変えるしかありません。又はその方が近道で労力も少ないでしょう。

ならば何を変えるのか？

そこで着目するのが

経済活動 = GDP = 一人当たりの生産性 X 人口 (人間の数)

それを上述の隠れたキーワード「物心に渡る満足度」に置き換えてみると

最終目的 = 人間の満足 = 快適さの追求 = もの所有の満足 + 心理的満足

に分解できました。

ご覧いただいておりますお分かりの通り

経済活動 (或いはその復活と再成長) とは「モノの所有の満足 (生産消費によってもたらされるエネルギーの過大放出)」だけを今のところ指しているに過ぎないという事が見て取れます。

それが、地球様との相反の原因でもありそうだと。

そうしてそういった考え方に基づく一人当たりの生産性のアップもそういった考え方に基づく人間（種族）の増加にも地球様は「No need」（いらんわ）と言っているように自分には、見えます。

（紙幅の関係で続きはまた…）